

2021年5月NHK関東甲信越地方放送番組審議会

5月のNHK関東甲信越地方放送番組審議会は、14日(金)、NHK放送センター(ウェブ開催)において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「2020年度関東甲信越地方放送番組の種別ごとの放送時間」について報告があった。続いて、水戸放送局の取り組みと今後の予定について報告した。その後、キタカン+「グルメ de キャンプ in 北関東」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、6月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

委員長	奥山千鶴子 (NPO法人びーのびーの理事長)
副委員長	小野 訓啓 ((株)めぶきフィナンシャルグループ取締役)
委員	泉田 佑子 (書家)
	尾形 玲子 (養蜂家、ひふみ養蜂園(株)代表取締役)
	片桐 幹雄 (株式会社野沢温泉代表取締役社長)
	斉藤とも子 (俳優/社会福祉士・介護福祉士)
	杉山 弘子 (アサヤ食品(株)代表取締役社長)
	杉山 正司 (元埼玉県立文書館館長)
	仁衡 琢磨 (ペンギンシステム(株)代表取締役社長)

(主な発言)

<キタカン+「グルメ de キャンプ in 北関東」

(総合 4月23日(金)放送) <茨城県域・群馬県域・栃木県域>について>

- 水戸、前橋、宇都宮の各放送局が連携した新しい取り組みで好感を持った。3局のインターローカル番組で制作には苦労も多かったと思う。それぞれの地域をバランスよく取り上げていたが、もう少し差をつけてもよかったのではないか。北関東3県の魅力が認知されていないという導入が興味深かった。番組前半で各県の食材を紹介していたが、情報量が豊富で見応えがあった。地域ならではの食材を守り続ける人たちの思いや、食文化の歴史を紹介したこともすばらしかった。番組後半

でキャンプをする場面があったが、コロナ禍にあることを感じさせ時宜を得ていた。一方で、アウトドアならではの楽しみ方やキャンプで役立つ情報があまり伝わってこなかったのが残念だった。また、食材の調理方法については出演者たち自身で考えてほしかった。イノブタなどはキャンプならではの味わい方ができる食材だと思うので、炭で焼くなどのこだわりがほしかった。誰でも簡単にキャンプができる時代であり、キャンプ場でのマナーなども問題になっているので、“持続可能なキャンプ”に資するような情報があるとなおよかった。また、今回は出演者が女性ばかりだったので、男性が加わるとさらによかったのではないかな。

○ 北関東の3局が連携して地域の魅力を発信する取り組みがすばらしかった。「キタカン+」という番組タイトルも前向きな印象でとてもよい。農畜産物の生産者を訪ねて地域の食材を紹介するなど、丁寧に取材されていた。食材に関する歴史なども紹介されていたが、食材への興味が高まるのでとてもよい。地域の食材を使用したレシピの紹介では、2次元コードを示してホームページに誘導しておりよい取り組みだと感じた。キャンプ場の情報についても掲載があるとなおよかったのではないかな。音楽にもこだわりが感じられ、飽きない番組構成がすばらしかった。今後も北関東3県を盛り上げるような番組を期待したい。一方で、出演者は女性ばかりで男女のバランスが気になった。

○ 屋外で楽しめるキャンプはコロナ禍においてとても人気が出ている。時宜を得た番組で興味深かった。北関東は魅力にあふれており、全国に誇れる食材も数多くある。今回の番組はすばらしい内容だった。栃木県では、サメが伝統的に食材として使われていることが紹介されるなど、食文化の歴史がとても興味深かった。一方で、料理をする場面についてだが、キャンプにおける火の扱い方や火加減の調整はとても難しいので、注意点なども紹介してほしかった。キャンプではさまざまなアクシデントが起こるが、それも大きな楽しみの1つであり、失敗するシーンなどがあったのもよかったのではないかな。北関東の3局が連携して番組を制作した取り組みがすばらしく、各県の魅力がよく伝わってきた。

(NHK側)

出演者の指摘など、頂いた意見は今後の番組制作に生かしていきたい。今回は食材を生かした料理の場面を中心に取り上げたが、アウトドアの楽しみ方についてももう少し触れてもよかったかもしれない。

○ 3局が連携して1つの番組を作るという取り組みがとてもよいと感じた。北関東

3 県の魅力度が低いという紹介から番組が始まったものの、終始明るい雰囲気番組でとてもよかった。それぞれの食材についての歴史なども詳しく紹介されており、とても興味深かった。イノブタの気性が一般的なブタに比べて荒いことなど、さまざまな知見を得ることができた。各県の食材が紹介されていたが、全国的にあまり知られていない食材が取り上げられていたこともよかった。一方で、新型コロナウイルスの感染対策が徹底されていたことはよいのだが、出演者は常にマスクを着けていた。マスクをしていると表情が隠れてしまうので、出演者を紹介するシーンだけはマスクを外してほしかった。また、キャンプで料理を作る場面では地域ごとにエプロンの色を分けていた。それはよかったのだが、どの色がどの県なのかが分かりづらかったのももう少し工夫してほしかった。今後も「キタカン+」で地域を盛り上げてほしい。

- 各地域の食材について、品種改良などさまざまな努力や取り組みがなされていることがよく伝わってきた。北関東3県の食文化は、それぞれが深く関わり合いながら発展してきたことを史実も交えて分かりやすく伝えており、意義深い内容だった。一方で、キャンプの利点あまり生かされない食材が多く取り上げられており、キャンプをテーマにする必要性をあまり感じなかった。食材の魅力に特化した番組にしてもよかったのではないかと。北関東の3局が連携して制作する「キタカン+」が地域の魅力を発信し続けることで、地域放送局の公共メディアとしての存在意義が高まると思う。県というくくりではなく、北関東3県をまとめた形で情報発信するというのは興味深い取り組みで、新たな可能性を感じた。
- 北関東の3局が連携して制作する最初の番組としては申し分のない内容だった。食材をテーマにしたことも親しみやすくよかった。各県の食材のルーツが実は他県にあるという紹介があったが、交流や交易についての新たな知見も得ることができた。群馬県の名産であるこんにゃくが、実は茨城県にルーツがあることは意外だった。また、茨城県で水揚げされたサメが栃木県で食されていることも初めて知った。一方で、技術が未発達であった時代にアンモニア臭の強いサメをどのように輸送していたのかなどについて、もう少し掘り下げて伝えてほしかった。また、画面の右上に番組タイトルのテロップが長い時間表示されており気になった。今後も「キタカン+」でさまざまなテーマを取り上げ、地域の人たちを楽しませてほしい。

(NHK側)

エプロンの色分けについての指摘など、頂いた意見は今後の番組制作に活かしていきたい。出演者のマスクを外すこと

についてだが、出演者の表情によって伝わる情報は少なくないと考えている。新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底したうえで、その時の状況を踏まえて適切に判断していきたい。

- 北関東3県の魅力度が低いというマイナスの要素を伝えただけで、プラスのイメージに転換していく内容で、番組構成がとてもよかった。食材をテーマにしたことも北関東の特色や魅力が伝わりやすくよかったと思う。ニワトリが一夫多妻であることがアニメーションを用いて分かりやすく説明されるなど、丁寧な番組作りがすばらしかった。こんにゃく芋を乾燥させて粉にするという中島藤右衛門さんの工夫により、からっ風が吹く群馬県でこんにゃく作りが広まったことなど、地域の特性が北関東の食文化に大きく影響していることを分かりやすく伝えていた。ソーシャルディスタンスの確保や、食事中は会話をしないなど、新型コロナウイルスの感染対策が徹底されていたこともよかった。一方で、関東の地図を色分けし、取り上げる県をオレンジ色で示すなど工夫していたことはよいのだが、北関東3県をまとめて取り上げる際の3県をオレンジ色で示した映像があまりに短かかったので、もう少し長くしたほうが親切だったと思う。また、栃木県で20年以上農家を続けているという方が紹介されたが、農業を長年続けることは一般的であり、その紹介のしかたにやや違和感を覚えた。番組の本質とは関係のないところが気にならないよう配慮してほしい。午後6時台に放送されている地域向けのニュース情報番組の中で、今回の番組の一部が再利用されていた。良質な内容を繰り返し伝え、視聴者が触れる機会を増やすことはすばらしい取り組みだと思う。
- 「キタカン+」で取り上げるテーマはさまざまなものが考えられるが、今回は食材に焦点を当てておりよかったと思う。出演していた各局のアナウンサーやキャスターが楽しんでいる様子が伝わってきて好感を持った。食材の生産者が出演して、こだわりのポイントなどを語っていたこともよい。このような地域の魅力をしっかりと伝えることで、NHKと地域の人たちの間により関係が生まれると感じた。初めて知る食文化の歴史も紹介されており興味深かった。栃木県の食材でかき菜を取り上げたこともよく、品種改良が進んでいることに驚かされた。北関東3県の魅力度が低いというやや自虐的な導入で番組が始まったことも工夫が感じられた。ただ、キャンプ地の場所がどこであったのかを知りたかった。北関東3県には生産量や出荷量が日本一の農産物が数多くある。「北関東は食の宝庫です」という説明があったが、その際に具体的な農産物を映像で紹介するとより視聴者に訴求したのではないか。初回の放送として滑り出しは上々の番組だったと思う。今後も北関東の魅力を再発見する番組を期待したい。「キタカン+」は地域向けの番組であるので、地

域の人々が「誰かに話したくなるような」内容を取り上げるとともに、この番組の認知度を高めて行ってほしい。

- 北関東3県の食材をテーマにした番組で、初めて知ることも多かった。食文化の歴史もしっかりと取り上げられており、良質な情報番組だったと思う。担当する県ごとに出演者のエプロンの色を分けるなど、視覚的に分かりやすくする工夫も感じられた。一方で、各県の色をどのように決めたのかが気になった。伝統食材を取り上げるパートで、栃木県のかき菜が紹介されていた。品種改良されてきたとのことだが、どの程度の品種があるのかなどもう少し詳しく伝えてほしかった。肩ひじを張らずに楽しみながら見ることが出来る番組でとてもよかった。キャンプ場の紹介がなく気になったが、新型コロナウイルスの感染拡大で外出自粛が求められていることもあり、配慮したのだろうと感じた。

(NHK側)

地域の視聴者が誰かに話したくなるような番組作りを引き続き心がけていきたい。今回頂いた意見は今後の番組制作に生かしていきたい。

(NHK側)

「キタカン+」は北関東3局が連携して制作するこれまでにないインターローカルの番組だ。新しい取り組みであり、視聴者からも注目されていたように思う。今回は初回ということもあり、北関東3県の関わりや一体感が伝わるような番組にしたいと考えた。また、コロナ禍であることも十分に考慮した。出演者自身でレシピを考えたいほうが、3局が協力して取り組む番組のコンセプトがより伝わり番組が盛り上がったかもしれない。マスクについての指摘は今後の番組制作に生かしていきたい。今後も北関東の3局が協力しながら、視聴者に満足いただける番組を制作していきたい。

<放送番組一般について>

- 4月16日(金)のとちスペ「ワンダフル・バーバー～104歳の聖火ランナー～」を見た。104歳で現役の理容師(バーバー)でもある箱石シツイさんを取り上げた番組だった。高齢でありながら聖火リレーを走るという話題性を意識した番組なの

かと思っていたが、実際は箱石さんに3年間密着した内容ですばらしかった。大正から令和までを生きてきた箱石さんの人生や、聖火ランナーとしての思いが伝わってくる、温かみの感じられる番組だった。104歳になりながらも現役で仕事を続ける箱石さんの人生哲学を学ぶことができた。箱石さんが語っていた「走る姿で見る人を勇気づけたい」ということばには重みがあった。コロナ禍におけるオリンピック開催の是非について言及があったわけではないが、オリンピックの意義についても考えさせられるような内容でとてもよかった。

(NHK側)

宇都宮局のカメラマンが箱石さんに3年間密着して取材を重ねてきたことが今回の番組につながった。これまでも「とちぎ630」で企画を放送するなど、箱石さんについて継続して伝えてきた。高齢の聖火ランナーということだけではなく、箱石さんの生き方を伝えたいと考えて番組を制作した。

- 5月7日(金)のとちспе「栃木の魅力? あるんだな、それが!」を見た。1月に放送された「ザ・ディレクション in 栃木」の続編にあたる番組だが、1月の放送を見ていない人にも配慮された構成になっていた。「ザ・ディレクション」の最後に後日談として、メンバーどうしの取り組みが相乗効果を発揮し、その成果がビジネスにもつながりそうだとすることを簡単に伝えていた。こうした後日談についてもっと知りたいと思ったし、「ザ・ディレクション」は、地域の様々な魅力の相乗効果をもっと前面に出してもよいのではないか。地域の放送局が番組に出演した人たちとのつながりを持ち続け、その後の取材を深めて新たな番組につなげることも、公共メディアとしての重要な役割だと考えている。

(NHK側)

「ザ・ディレクション」で得た出演者とのつながりは、今回のように「とちспе」の制作などに生かしている。このほか、5月末に放送する予定の「夕暮れとちのき堂」でも「ザ・ディレクション」に関わった人たちをゲストに迎え、話を聞く予定だ。頂いた意見は現場に伝えるとともに、今後の番組制作に生かしていきたい。

- 4月21日(水)の「新潟ニュース610」を見た。「にいがたSDGs」という新しい企画が始まった。地域の中でSDGsと言われてもすぐにイメージの湧かない人も多いのではないかと。視聴者が学びを深めることができる意味で興味深い企画

だと思う。初回ということでSDGsということばの意味から解説しており、とても丁寧でよかった。今回は、通常廃棄されてしまう米を利用したバイオマスプラスチックについて紹介していた。このプラスチックからできている製品を購入した人が「普通のプラスチックより罪悪感がない気がする」とインタビューに答えるシーンがあった。一般的なプラスチックとの比較や環境への負荷などを掘り下げずに、環境に優しい感じがするという感想を伝えることはSDGsの報道としては情報が不足しているのではないか。SDGsについてはより多角的に取材をし、視聴者が環境への負荷について考えたり、判断したりできるような情報をしっかりと伝えてほしい。

(NHK側) SDGsに対する世の中の関心は高まっていると考えている。頂いた意見を踏まえ、引き続き情報発信に努めていきたい。

- 5月7日(金)の知るしん 信州を知るテレビ「報道写真家・石川文洋～震災10年“生きる”を撮る～」を見た。石川さんはベトナム戦争を現地で取材したほか、東日本大震災の取材も続けている。石川さんがベトナム戦争や東日本大震災に報道写真家としてどのように向き合ったのかがよく伝わってきた。番組の構成がすばらしく、石川さんの仕事に対する考え方や平和への思いがよく理解できた。子どもの時に「原子力明るい未来のエネルギー」という標語がコンクールで入賞した男性の話からは、当時の国策や時代背景などさまざまなことを想起した。石川さんが過去を回想しながら取材を続ける様子から、ベトナム戦争の悲惨さや今なお難しい課題が山積する東日本大震災について深く考えさせられた。石川さんがベトナムで撮影した少女の写真からは、報道写真家が大変な仕事であることを実感した。「人間の心を自分は写す」という石川さんのことばが印象に残った。石川さんの報道に対する考え方やこれまでの経験がよく分かる、示唆に富んだすばらしい番組だった。

(NHK側)

今回の番組ではディレクターが取材のほか撮影も行うなど、意欲的に取り組んだ。頂いた意見は現場に伝えて励みにするとともに、今後の番組制作に生かしていきたい。

- 4月18日(日)の小さな旅「大都会の森で～東京港区白金台～」を見た。都心にも豊かな自然が残されていることに驚かされた。舞台となった国立科学博物館附属自然教育園の歴史や関わりのある人たちについて丁寧に紹介されていた。カメラワークもすばらしく引き込まれた。長年カワセミの観察を続けている研究員の話が

とても興味深かった。落ち着いたナレーションも番組の雰囲気と合っておりとてもよかった。「小さな旅」はすばらしい番組なので、今後も継続して行ってほしい。

(NHK側)

今回の「小さな旅」では、港区白金台にある自然教育園に焦点を当てた。若いディレクターが取材をする中で、カワセミのエピソードを伝えることができた。コロナ禍でロケが難しいこともあるが、しっかりと感染対策をしたうえで状況を見極めながら番組を制作していきたい。

- 5月11日(火)の「NHKニュース おはよう日本(関東甲信越)」を見た。「モーリー・ロバートソンが見た渋沢栄一」というコーナーで、NHK大河ドラマ特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」が取り上げられていた。この展覧会は5月16日(日)までなので、もう少し早い時期に放送すべきだったと思う。

(NHK側)

頂いた意見は受け止めさせていただく。放送するタイミング、企画の位置づけなどをしっかりと考慮したうえでラインアップを決めていきたい。

- 5月7日(金)の首都圏情報ネタドリ!「離婚による“親子の別れ” 子どもたちの思いは…」を見た。子どもたちの視点で、両親の離婚について取り上げていた。子どもたちにとっては両親が離婚したとしても親であることに変わりはなく、面会交流などの支援に取り組む自治体の動きなどが紹介されていた。とてもよい番組だった。
- 4月17日(土)の【ストーリーズ】ノーナレ「雪に踊る男たち ▽新潟・豪雪地帯を生きる」を見た。「ノーナレ」はナレーションがなく、出演者と音楽と映像で構成される番組だ。出演者の話を直接聞いているような臨場感があり、良質な番組だと思う。今回は新潟県十日町市の除雪に関わる3人の男性が紹介されていた。音楽にもこだわりが感じられ、豪雪に向き合う人たちの熱い思いがしっかりと表現されていた。雪への対応に関わる人たちの仕事ぶりや葛藤がよく伝わってきた。それぞれの率直な思いをうまく拾い上げていたと思う。雪に対する強い愛や、地域への思いが伝わってくる内容で、味わい深い番組だった。

- 4月20日(火)のプロフェッショナル 仕事の流儀「笑顔をうつす ひとしづく

～ワイン醸造家・斎藤まゆ～」を見た。山梨県のワイン醸造家である斎藤さんについて特集されていた。ワイン造りに向き合う斎藤さんの考え方がよく理解できた。また、国際線のファーストクラスで提供されるほど上質なワインを製造するワイナリーの裏側を知ることができた。山梨県のワインの魅力がしっかりと伝わってくるよい番組だった。

(NHK側)

3月から4月にかけて、甲府放送局は「8Kニッポン 大地とぶどうと造り手と 極上“山梨”ワイン」と「プロフェッショナル 仕事の流儀」の2つの番組でワインの醸造家に焦点を当てた。4人の醸造家を取り上げたが、それぞれの違いや共通点についてしっかりと伝えることを心がけた。ワイン造りにも個性や多様性があることを伝えることができたと思う。今後も地域のさまざまな魅力を幅広く発信していきたい。

- 4月29日(木)のあの日 あのとき あの番組「古賀稔彦さんがのこしたもの」(総合 後1:50～3:00)を見た。3月に亡くなられた古賀さんを追悼する内容で、2000年に放送されたドキュメントにっぽん「三四郎の雪辱～金メダリスト古賀稔彦の闘い～」を紹介する番組だった。さまざまな困難がありながらもあきらめずに努力を続けた古賀さんの姿がすばらしく、本当に惜しい人を亡くしたと感じた。森田美由紀アナウンサーの進行も落ち着きがありすばらしかった。古賀さんとともに切磋琢磨してきた柔道家の山口香さんや野村忠宏さんの話はとても興味深かった。
- 5月9日(日)のNHKスペシャル「被曝(ぼく)の森2021 変わりゆく大地」を見た。すばらしい内容で、頭が下がる思いだった。NHKスペシャルはとても良質な番組であり、今後も続けて行ってほしい。また、「ノーナレ」はナレーションのない番組だが、さまざまな要素を削ぎ落としているからこそ、視聴者が自分で考える力を養える番組だと感じている。今後も視聴者の感性を育むような番組を期待している。このほか、「NHK映像ファイル あの人に会いたい」は亡くなられた著名人について映像で紹介し、意外な一面もうまく織り込んで伝えている。人が生きるうえでの哀切やユーモアが伝わってくるほか、取り上げられる人が生きた時代背景もよく分かる。良質な番組なので、今後も続けて行ってほしい。「目撃! にっぽん」は地域放送局が制作していることも多く、若いディレクターの成長や取材相手との信頼関係が感じられる番組だ。しっかりと視聴者の目線に立っているので応援している。

(NHK側)

「あの日 あのとき あの番組」や「NHK映像ファイル あの人に会いたい」はNHKがこれまで放送してきた映像資産を生かした番組だ。多くの映像資産を持つことはNHKの強みでもあり、今後もしっかりと活用していきたいと考えている。著名な方がお亡くなりになった際には、過去の映像資産を用いて追悼番組を放送するなど、視聴者の関心に応える編成を行っている。

- 5月1日(土)の【ストーリーズ】事件の涙「たどりついたバス停で～ある女性ホームレスの死～」を見た。都心のバス停でホームレスの女性が近所の男に襲われて亡くなった事件とその背景に迫っていた。近くに住んでいた弟を頼ることができなかった複雑な思いや、出身地の広島県から夢を持って上京してきた当時の様子など、被害者の女性の人生を丁寧にたどった迫真のドキュメンタリーだった。衝撃的な内容だったが、コロナ禍での失業など現代社会のさまざまな問題を浮き彫りにしており、考えさせられた。コロナ禍で生じる悲劇が身近あることをしっかりと伝える意義深い番組だった。
- 5月4日(火)の最後の講義「社会学者 上野千鶴子」(総合 前5:10～5:40)を見た。「最後の講義」は人生最後ならば何を語り残すかということテーマにした番組だ。上野さんは数々のベストセラーを執筆しており、東京大学での入学式の祝辞も話題になった方だ。上野さんの語り口がとてもすばらしかった。現代に比べて女性が自立することが難しかった時代を生き、さまざまな女性の問題に取り組んできた経験がよく伝わってきた。たとえ話も具体的で分かりやすく、内容も興味深かった。講義を受ける男性がうなずきながら聞いているシーンが印象に残った。上野さんは今後の日本の展望についても語っており、多くの人に見てもらいたい番組だと感じた。
- 5月13日(木)のクローズアップ現代+「【ヤングケアラー】大人がいますべきこと・具体策」を見た。ヤングケアラーの問題については強い関心を持っているが、取材の尽くされたとてもよい番組だった。この問題については今後も継続して伝えてほしい。
- 5月13日(木)のクローズアップ現代+「【ヤングケアラー】大人がいますべきこと・具体策」を見た。さまざまな具体例が紹介されていた。かつてヤングケアラーであった人の話や、神戸市の取り組みのほか、イギリスでの事例も取り上げられて

いた。視聴者の理解を深めるだけでなく、支援の充実など行政が取り組むきっかけになるとよいと思う。

- 連続テレビ小説「おちょやん」を見ていた。戦後の厳しい状況の中、さまざまな家族の形や人生の悲喜こもごもを描いたドラマだった。最終回は温かみを感じられる内容でとてもよかったと思う。「ドラマ10」や「土曜ドラマ」など、さまざまなジャンルの良質なドラマを作り続けていることがNHKのよさだと感じている。
- 「みみより！くらし解説」を見ている。さまざまなテーマについて分かりやすくまとめて伝えておりとてもよい。キャスターの岩渕梢さんがニュースのポイントについて解説者に質問をする形式の番組で、ニュースを見ただけでは捉え方が難しい問題について理解が深まる。5月7日(金)の「スエズ運河座礁 背景とくらしへの影響は」では、スエズ運河でのコンテナ船座礁事故の原因について掘り下げており、納得感があった。
- 4月17日(土)のすくすく子育て「メンタルクライシス(1)～はじめて親になるとき～」と24日(土)の「メンタルクライシス(2)～子育て状況が変わるとき～」を見た。赤ちゃんが生まれたばかりの家庭では、コロナ禍によってこれまで以上に緊張感を持って子育てをしている。初めて親になったときは子育てに不慣れなこともあり、自身の精神面まで気が回らないことが多い。親たちのメンタルケアについて、精神科医などの専門家が具体的な方策を示しており、とてもよい番組だった。
- 「将棋フォーカス」を見ている。新年度からオープニングのCGと音楽が一新されたほか、番組のキャラクターも登場するなど、さまざまな改良が加えられている。番組構成もこれまでと異なっているが、より親しみやすくなったと感じている。30分間飽きずに見ることができる工夫が施されておりとてもよい。このような長寿番組の演出を変えることは勇気がいることだと思うが、すばらしい改善がなされており評価したい。
- 4月22日(木)のヒューマニエンス 40億年のたくらみ「“出産”ヒトは難産を選んだ」を見た。人間の赤ちゃんは体よりも脳が先に発達した状態で生まれてくることが紹介されていた。NHKらしい番組ですばらしかった。最近では最新の科学的研究成果が、実際の子育てに生かされ始めている。「すくすく子育て」などの番組でも、科学的な根拠とともに具体的な方策を紹介することが重要だと感じている。

- 4月29日(木)のヒューマニエンス 40億年のたくらみ「“涙” 秘められた魔法のチカラ」を見た。さまざまなストレスを抱える現代人にとって、涙を流すことによってストレスが解消できることを根拠とともに分かりやすく解説しており興味深かった。著名な専門家も出演しており、番組に説得力をもたらしていたと思う。番組構成やゲストの選定など、とてもバランスの取れた内容だった。「ヒューマニエンス 40億年のたくらみ」はNHKならではの番組であり、引き続き期待したい。

- 5月8日(土)に再放送された「偉人にチャレンジ～伝説の真相に迫る～佐々木蔵之介がナビゲートする新感覚歴史番組」(BSプレミアム 後7:30～9:00)を見た。歴史的な資料を読み解き、数百年前の逸話を科学の力で再現するという斬新な歴史番組だった。那須与一とモーツァルトの逸話を紹介していたが、特に那須与一の話がとても興味深かった。那須与一が屋島の戦いで軍船に掲げられた扇の的を射落としたという伝説について、数学や天文学などを用いて検証しており、NHKならではの番組だと感じた。数学的には射落とせる確率はおよそ1%という計算だったが、弓道家の徳山陽介さんが実証実験をした結果およそ10射で命中していた。伝説が真実であった可能性を感じられる新しい歴史番組で、視覚的にも引きつけられた。今後にも期待したい。

- 慶應義塾大学名誉教授で言語生態学者の鈴木孝夫さんが2月に亡くなられた。数々の名著はさまざまな言語に翻訳されて世界中で読まれている。鈴木さんの人生はとても興味深いので、「E T V特集」などの番組で取り上げてほしい。

NHK編成局
番組審議会事務局

2021年4月NHK関東甲信越地方放送番組審議会

4月のNHK関東甲信越地方放送番組審議会は、16日(金)、NHK放送センター(ウェブ開催)において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、新潟放送局の取り組みと今後の予定について報告した。その後、目撃!につぼん「おもてなしの心、貫いて～新型コロナと女将(おかみ)の1年～」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、5月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

委員長	奥山千鶴子 (NPO法人びーのびーの理事長)
副委員長	小野 訓啓 ((株)めぶきフィナンシャルグループ取締役)
委員	泉田 佑子 (書家)
	尾形 玲子 (養蜂家、ひふみ養蜂園(株)代表取締役)
	片桐 幹雄 (株式会社野沢温泉代表取締役社長)
	斉藤とも子 (俳優/社会福祉士・介護福祉士)
	杉山 正司 (元埼玉県立文書館館長)
	仁衡 琢磨 (ペンギンシステム(株)代表取締役社長)
	宮田麻一美 (万座温泉日進館女将)

(主な発言)

<目撃!につぼん「おもてなしの心、貫いて～新型コロナと女将(おかみ)の1年～」

(総合 2月28日(日)放送) について>

- 興味深いタイトルで、深く考えさせられる番組だった。旅館の経営において、新型コロナウイルスの感染拡大とどのように向き合えばよいのかはとても重要な問題だ。経営の悪化や従業員の雇い止め、予約客からのキャンセルなどさまざまな問題が発生したにも関わらず、おかみの発地満子さんは前向きに困難に立ち向かっていた。その姿に励まされるとともに、勇気をもたらした。首都圏からの宿泊者を受け入れた旅館が、地域住民から非難される場面はとても切なく、いたたまれない気持ちになった。発地さんの思いや努力がよく伝わってきて、頭が下がる思いだった。

新型コロナウイルスの感染対策で宿泊客に提供する手袋はコストがかかるにも関わらず良質なものを使っており、発地さんのおもてなしの心に感動した。一方で、「G o T o トラベル」の効果で満室になった日があるという紹介があったが、新型コロナウイルス感染拡大以前の満室とは受け入れた客数が異なったのではないか。もう少し丁寧に説明してほしい。新型コロナウイルスの感染拡大下に旅館のおかみが一所懸命取り組む様子を伝えた意義のある番組だった。

- 俳優の高橋克実さんのナレーションは温かみがありすばらしく、番組の内容にもぴったりだと感じた。番組冒頭で高橋さんを紹介する際に、新潟県出身であることを明示したほうがよかったと思う。見るのがつらくなるような切ない話もあったが、テロップの色使いが工夫されており、視聴者が受ける印象を和らげていたことを評価したい。およそ1年にわたって同じ旅館を取材するという、地域放送局の強みが生きた番組だったと思う。発地さんに焦点を当てていたが、従業員が率直な思いを吐露する場면을伝えていたことは重要で、とてもよかった。従業員がテレワークを前面に打ち出したワーケーションの宿泊プランを企画するなど、前向きに取り組む様子には救われる思いがした。予約客にキャンセルを促すという苦渋の決断についても、それこそがおもてなしであることがしっかりと伝わってきた。重要なポイントを丁寧に伝え、前向きな終わり方をしていたこともよかった。今後も継続的に取材し、コロナ禍で苦境に立たされている人たちを勇気づけるような番組を制作してほしい。

(NHK側)

満室になったという紹介についてだが、取り上げた旅館は本館と別館があり、新型コロナウイルスの感染が拡大してからは本館のみで、さらに部屋数を減らして営業している。指摘のとおり、この状況における満室ということであり、もう少し丁寧に伝えてもよかったかも知れない。

- 地域の旅館を長期間取材して伝えるという地域放送局ならではの意義のある番組だった。新型コロナウイルスの感染拡大がこの1年で旅館に与えた影響をうまくまとめていた。コロナ禍で生じる問題の縮図を浮き彫りにしていたと思う。地域住民による旅館への批判などは取り上げにくかったと思うが、重要なポイントでありしっかりと伝えたことはよかった。常連客に対して、旅館側からキャンセルを依頼していたが、それこそが発地さんのおもてなしであることがよく伝わってきた。常連客も発地さんの気遣いを理解しており、とてもよいシーンだった。従業員の苦悩や取り組みが丁寧に描かれており、さまざまな工夫をしてこの苦境を乗り越えよう

としていることが理解できた。勇気をもらえるよい内容だったので、今後も取材を続けてほしい。

- 番組全体を通して、人と人との心の交流がよく描かれており、胸を打つシーンが数多くあった。番組制作者と旅館関係者の信頼関係がしっかりと築かれていたことでこのような場면을撮影できたのだと感じた。およそ50年にわたって苦楽をともにした従業員を雇い止めにするシーンがあったが、発地さんの思いがよく伝わってきた。この従業員が旅館を訪ね、発地さんと会話を交わすシーンに胸を打たれた。このシーンには女性のすすり泣くような音声が入っていたが、ディレクターの声だったのではないか。また、予約客にキャンセルを促すというつらい場面があったが、発地さんにインタビューするディレクターの優しさが胸に響いた。発地さんの冷静で穏やかな人柄もよく伝わってきた。表情の変化をうまく捉えており、すばらしかった。
- 新型コロナウイルス感染拡大下における旅館のおかみの苦悩がよく伝わってきた。人と人とのつながりが丁寧に描かれており、発地さんが客を思う気持ちに感動した。予約客にキャンセルを促すシーンは切なく、勇気のある決断だと感じた。常連客も発地さんの思いを理解しており、よい関係性が築けているのだと感じた。弁当の販売に活路を見いだそうとする発地さんと、その難しさに苦悩する従業員の気持ちはどちらも理解できる。弁当を食べる子どもたちの反応などを紹介すると、よりよかったのではないか。新型コロナウイルス感染拡大の影響は今後も続き、リモートワークはさらに推進されるだろう。ワーケーションなどの関連した取り組みが紹介されていたが、とても重要な戦略だと感じた。この取り組みの結果については、改めて伝えてほしい。

(NHK側)

ドキュメンタリー番組の制作においては、ディレクターが取材相手とどの程度の距離感で接するかがとても難しい。この番組の制作にあたって、そのことに腐心した。相手思いやりながらも、適切な距離感を保つことで客観的に伝えることができたと考えている。

- 新型コロナウイルスの感染拡大で旅館の経営が大変な状況にあることがよく理解できた。おかみが中心となって新たな収入源を模索しているとのことで、続編にも期待したい。発地さんの「コロナは人の心までもむしばむ」ということばが印象に残った。年末年始の予約客にキャンセルを促す電話をして、発地さんが涙を流す

シーンがあった。あえてナレーションを付けていなかったことで、より視聴者の胸に響いたのではないかと。厳しい状況でもなんとか工夫してビジネスチャンスを探し、前向きに取り組もうとする発地さんの思いや旅館を運営する使命感が伝わってきた。発地さんは行政の対応を批判することなく、ひたすら前向きに取り組んでいた。今後の旅館業を考えるうえでのヒントになる番組だったのではないかと。高橋さんのナレーションは情感がこもっておりすばらしかった。

- 長期間取材を続けて番組にしたことを高く評価したい。発地さんについてはこれまでも「新潟ニュース610」や「金よう夜きらっと新潟」で何度か取り上げていたので知っていたが、すばらしい番組だった。新型コロナウイルスの感染拡大で旅館の経営者たちは皆同様の努力を続けている。旅館業が置かれている状況を客観的に伝える意義のある番組だった。高橋さんのナレーションは情感がこもっておりすばらしかった。地域放送番組で取り上げられる際はどうしても地域目線の内容になってしまい、逆に共感しづらいと思うことがある。この番組は全国の視聴者に向けて作られており、客観性の高い内容でよかった。新潟県に住む人たちにとっても、身近な問題を改めて考えるきっかけになったのではないかと。事実をありのまま丁寧に伝えておりとてもよかった。発地さんが無言で涙するシーンがあったが、ことばに表せない複雑な思いがしっかりと伝わってきた。一方で、暗めの映像が多かったので、旅館のある南魚沼市の美しい自然の映像も紹介するとなおよかったと思う。

(NHK側)

新型コロナウイルスの感染拡大が社会に与える影響は大きく、状況も目まぐるしく変化していたので、現場で感じたことをそのまま撮影して伝えるということを心がけた。温泉旅館の1年間の姿をありのままに伝えることができたと考えている。南魚沼市の美しい四季の風景については、つららの映像などを紹介した。頂いた意見は今後の番組制作に生かしていきたい。

- 予約客のキャンセルによる旅館への影響について、発地さんが「雪崩を打つような」という表現をしていた。新型コロナウイルスの感染拡大によってこれまでのにぎわいが一変する不条理さがよく伝わってきた。弁当の販売に違和感を覚える営業担当者などが率直な思いを語るシーンや、やむをえず雇い止めをされた従業員がいたという紹介、そしてインターネット上での旅館に対する心ない書き込みなどから、コロナ禍で理不尽な状況が生じていることがよく伝わってきた。温泉旅館を長期間取材することで、新型コロナウイルスの感染拡大が地域経済に及ぼす影響をよく描

いていた。この番組は何年後かに改めて見たとき、貴重なアーカイブスになると感じた。その意味では、撮影した日付を示すテロップに西暦も記載するとなおよかったと思う。

- 現在も続く新型コロナウイルス感染拡大の影響に翻弄される、旅館のおかみの1年間の姿を客観的に伝えており考えさせられた。多くの視聴者が、それぞれの状況と重ね合わせて番組を見たのではないか。先が見通せない状況の中、なんとか明るい兆しを見いだしたいというメッセージが、番組タイトルの「おもてなしの心、貫いて」ということばに込められていると感じた。コロナ禍で苦悩する旅館の従業員に焦点を当てていたこともよかった。旅館のありのままの状況を伝えたシーンが多かったが、発地さんが予約客にキャンセルを促す場面では、インタビューアーの姿と声が映し出されていた。視聴者が感情移入できる演出だったと思う。旅館がある南魚沼市は新潟県の中でも有名な豪雪地域だ。厳しい状況にも前を向いて何度も立ち上がるという、雪国の人々の辛抱強さがよく表現された良質な番組だった。

(NHK側)

新型コロナウイルス感染拡大の影響で不条理なことが起きている。この番組の大部分は旅館のある南魚沼市で初めて新型コロナウイルスの感染者が報告される前に取材したものが、地域で感染が拡大していなかったとしても、経済に大きな影響が出るという怖さを伝えたいと考えた。およそ1年前の映像では、宿泊客や旅館の従業員がまだマスクをしていなかった。このような違いを映像で伝えることができたのは、この旅館を長く取材していた成果だと考えている。指摘頂いたように、記録を後世に残すという視点も大切にしながら、引き続き地域の課題を見つめる番組を制作していきたい。

(NHK側)

番組のディレクターは「どんなことがあっても、何度でも立ち上がる雪国のおかみがいる」という番組最後のコメントに、さまざまな思いを込めたと聞いている。頂いた意見は今後の番組制作に活かしていきたい。

<放送番組一般について>

- 3月30日(火)の「ぐんまスペシャル～東京2020オリンピック聖火リレー～」(総合 後7:30～8:10 群馬県域)と、3月30日(火)から4月1日(木)の「ほっとぐんま630」を見た。3月30日(火)と31日(水)に群馬県内で聖火リレーが行われたが、前橋局では特集番組や18時台のニュース情報番組で特集していた。聖火ランナーへのインタビューや、聖火リレーの舞台裏を紹介しており興味深かった。聖火リレーがさまざまな人たちの努力に支えられて実現していることがよく理解でき、関係者の思いがしっかりと伝わってきた。聖火リレーのダイジェスト映像はすばらしく、胸が熱くなった。2次元コードを画面に表示して、特設サイトでのライブ配信を案内していたことも丁寧でよかった。カメラワークもすばらしかったと思う。東京オリンピック・パラリンピックの開催には賛否があるが、これらの番組を見て応援したい気持ちになった。新型コロナウイルスの感染拡大で、多くの人が集まるイベントは行われなくなったが、皆が心を一つに応援することが許されるのがオリンピックなのだと感じた。安全安心が第一であることは言うまでもないが、聖火リレーが多くの人の希望になっていることはまぎれもない事実だと感じた。一方で、聖火リレーを応援する人たちのインタビューが紹介されていたが、オリンピックの開催に前向きな意見が多かった。批判的な意見も伝えてほしかった。

(NHK側)

群馬県内で行われた聖火リレーについては、前橋局の新たな試みとして「ほっとぐんま630」と「ぐんまスペシャル」を連動させて詳しくお伝えした。東京オリンピック・パラリンピックの開催についてはさまざまな意見がある。頂いた意見は今後の番組制作に生かすとともに、引き続き地域に寄り添ってさまざまな話題をしっかりと伝えていきたい。

- 「新潟ニュース610」を見ている。新潟県内のプロサッカーチームや、オリンピック代表が内定した選手の活躍など、暗いニュースが多い中でも明るい話題をしっかりと伝えており元気をもたらしている。SNSを活用していることもすばらしいと思う。新年度から、視聴者の疑問に答える「新潟Q」というコーナーが始まったが、視聴者どうしが意見交換できるような機会があると、さらに盛り上がるのではないか。今後はSDGsについて取り上げる予定があるとのことだが、最近話題になっている柔軟剤の中に含まれているマイクロカプセルの“香害”についても伝えてほしいと思う。また、6月に行われる予定の新潟県内での聖火リレーについて、聖火ランナーや住民がどのような考えを持っているのかについて伝えてほしい。

(NHK側) 新潟局は2021年11月の開局90年に向けて「新潟ニュー

ス610」を中心に、新しい企画を続々と立ち上げている。
頂いた意見を参考にして、引き続き地域サービスの充実に取
り組んでいきたい。

- 4月9日(金)の金よう夜きらっと新潟「聞かせてください あなたの“新型コロナ1年”」を見た。視聴者からお便りを募集し、番組の中で紹介していた。番組で取り上げられなかったお便りについても、SNSに掲載された動画の中でアナウンサーが紹介しており感心した。新潟局のホームページには番組制作者の放送後記も掲載されており、デジタルサービスがすばらしい。さまざまな媒体で視聴者に届けようとする思いがよく伝わる取り組みだと評価したい。

(NHK側)

指摘頂いたとおり、番組内で紹介しきれなかった視聴者の声についてはSNSで発信させていただいた。今後もデジタル展開を強化していきたい。

- 4月2日(金)の首都圏情報 ネットドリ！「コロナ×東京五輪・パラ 首都圏の現場では」を見た。首都圏には、ホストタウンとして海外からの観客受け入れに向けて準備を進めてきた人たちが数多くいる。海外からの観客を受け入れないことが決まったが、これまで行ってきたことをしっかりと生かす取り組みが番組内で紹介されており、勇気づけられた。
- 4月9日(金)の首都圏情報 ネットドリ！「生理・更年期 女性の悩み フェムテックが解決！？」を見た。生理などの女性の悩みについて丁寧に取り上げており、多くの女性が勇気づけられたのではないか。女性の体の悩みを科学技術で解決する「フェムテック」ということばを初めて知った。最新の科学技術が女性の悩みの解消に役立っていることが分かる、とても興味深い番組だった。

(NHK側)

先進国の中で、日本はジェンダー・ギャップの大きい国だと言われている。生きづらさを感じている女性も数多くいる中で、女性の悩みを科学技術で解決する「フェムテック」について取り上げた。女性の視点を大切にして、男性の理解をより深める内容にすることを心がけた。よりよい社会を今後どのように実現していけばよいのかについて考える番組を引き続き制作していきたい。

- 大河ドラマ「青天を衝(つ)け」を見ている。北大路欣也さん演じる徳川家康が“狂言回し”の役割を担う演出は目新しく、興味深い趣向だと思う。オープニングの映像はCGがとてもよく、タイトルの「青天」ということばとも相まって若々しさが感じられてすばらしい。黒澤和子さんの衣装デザインもすばらしく、着物の色使いが美しい。また、佐藤直紀さんの音楽もとてもよい。水戸もドラマの舞台になっており、水戸局も地域放送番組で取り上げるだけではなく駅前でも広報するなど、大河ドラマを積極的に盛り上げている。水戸が大河ドラマで盛り上がっていることを実感している。

(NHK側)

大河ドラマ「青天を衝(つ)け」は水戸が物語の重要な舞台となっており、水戸局が一丸となってPRなどを展開している。「いば6」では徳川慶喜を演じる草薙剛さんや徳川斉昭を演じる竹中直人さんにインタビューするなど、さまざまな企画を放送している。4月11日(日)にはドラマの出演者をゲストに迎え、「青天を衝(つ)けファン感謝祭 in 水戸」というイベントも行った。その模様は4月16日(金)に放送する予定だ。引き続き視聴者に満足いただけるような取り組みを続けていきたい。

- 3月31日(水)の歴史探偵「参勤交代」を見た。愛知県の三河吉田藩に伝わる参勤交代に関する新しい資料が発見されたことを前面に出していた。資料そのものは確かに新発見だったが、資料の内容は一般的なものであり目新しさは感じられなかった。ドラマ仕立ての演出や、古文書を参考にして資料を読み解く手法など、説得力のある番組だったと思う。参勤交代について実証的に取り上げ、現代の事例に例えて紹介するなど、難解な歴史の入門番組としてはよかったと思う。今後は、箱根の通関手続きなどのテーマを扱ってもよいのではないか。また、参勤交代は示威行動でもあるので、御先三品などに触れてもよかったと感じた。今後も参勤交代について多角的に取り上げてほしい。なお、映像で紹介された参勤大名が乗る籠は、実際のものとは形状が異なっていた。4月14日(水)の「関ヶ原の戦い」では、赤色立体地図など新しい手法を用いて歴史を読み解いていた。歴史エンターテインメント番組として今後に期待したい。

(NHK側)

頂いた指摘は現場に伝えるとともに、今後の番組制作に生

かしていきたい。

- 4月11日(日)のたっぷり関東NHK「青天を歩け！～渋沢栄一の足跡を訪ねる～」を見た。これまでに「ひるまえほっと」などで放送された「青天を歩け！」という企画の総集編で、まとめて見ることができてよかった。東京、神奈川、埼玉を舞台に、渋沢栄一にゆかりのある話題を取り上げており、各地の特徴もしっかりと伝わってきた。大河ドラマの直後に放送されている「青天を衝(つ)け紀行」とは、また違うよさがあった。渋沢栄一は関東甲信越地方の各地に足跡を残しているので、各地域放送局が制作した企画もぜひ放送してほしい

(NHK側)

さいたま局が中心になって制作した番組だ。渋沢栄一の足跡を訪ねるにあたっては、埼玉県だけではなく幅広い地域を取材することが重要だと考え、東京都や神奈川県の話も取り上げた。「青天を衝(つ)け紀行」とは異なった演出で、渋沢栄一の足跡が現代につながっていることが伝わるよう心がけた。今後も首都圏局と連携し、さまざまな企画に取り組みたいと考えている。

(NHK側)

今後も渋沢栄一に関連する話題については幅広く取材を続け、番組で取り上げていきたい。

- 4月2日(金)のドキュメント72時間「大病院のコンビニ それぞれの“生きる”」を見た。病院のコンビニに密着して来店する人たちの思いに耳を傾ける内容だった。他人への感謝の思いを口にする人が多く、感動的なシーンも数多かった。大けがから救ってくれた医師への感謝を語る患者のことばが印象に残った。入院を自分と向き合う大切な機会であると前向きに捉える患者もおり、とても参考になった。人間の思考の奥深さがしっかりと伝わってくる内容だった。転落事故による大けがで苦しいリハビリに前向きに取り組む若者の姿に心を打たれた。病院のコンビニが苦しい入院生活の中で憩いの場になっていることがよく伝わってきた。
- 4月6日(火)の「NHKニュース おはよう日本」を見た。本来大人が担うことが多い家事や家族の世話などを日常的に行うことで、進学などを断念せざるをえない“ヤングケアラー”の実態調査について伝えていた。埼玉県の公立高校145校の生徒にアンケートを実施していたが、希望する進路を断念した生徒が少なくとも4

4人いたということだった。埼玉県教育委員会の担当者のインタビューや“ヤングケアラー”に詳しい専門家の話が紹介されており参考になった。共働きの両親に代わって祖父母の介護をしなければならず、自身の進路をあきらめた女性が紹介されていた。いじめやハラスメントなどはメディアでも頻繁に取り上げられて人々の関心を集めているが、あまり顕在化していない問題を取り上げて問題提起したことを評価したい。公共放送の使命を果たすレポートだったと思う。社会的に意義のあるテーマを今後も取り上げ続けてほしい。

- 4月12日(月)の逆転人生「電光石火！コロナ禍で売上ゼロからの逆転」を見た。体験型レジャーの予約サイトを運営するベンチャー企業に焦点を当てていた。新型コロナウイルスの感染拡大で売上が大きく落ち込んだ状況から4か月で大幅に業績が回復をしたという内容に驚かされた。融資が受けられない中でも従業員を解雇しない仕組みを作ったことなど、とても興味深かった。現在は多くのレジャー施設が人数制限をすることで利用できるようになってきている。ここにビジネスチャンスを見だし、時間ごとに予約人数の上限を設けるシステムを短期間で開発して提供していた。成功だけではなく、売り上げが落ちて厳しい状況にあるときの苦労を丁寧に描いていたことがよかった。困難に直面しても前向きに取り組むことの重要性を実感させてくれる番組だった。
- 3月28日(日)の趣味の園芸「花産地でプロに学ぶ」を見た。千葉県君津市でのカラー栽培の様子を紹介していた。2019年の台風で被災した地域を応援するよい番組だった。

(NHK側)

被災した地域を応援したいという思いもあり、カラー栽培の話題を取り上げた。番組の中で、俳優の三上真史さんが千葉局の花壇をデザインする様子が紹介されたことで、多くの視聴者に千葉局を訪れていただくことができた。今後も地域に寄り添った発信を続けていきたい。

- 4月1日(木)の太田光のつぶやき英語「SNSで注目！“コロナ世代”の若者たち」と4月15日(木)の「#StopAsianHate アジア系への差別をやめよう」を見た。話題のニュースやトレンドに関するSNSの投稿を取り上げて英語で読み解く番組で、立教大学の鳥飼玖美子名誉教授の解説がとてもよかった。さまざまなニュースを国際的な視点で理解できるうえに英語も学ぶことができるので勉強になる。太田光さんの飾らない司会もとてもよいと感じている。

- 4月5日(月)の100分de名著「渋沢栄一“論語と算盤”(1)高い志が行動原理を培う」と、12日(月)の「(2)“信用”で経済をまわせ」を見た。司会に伊集院光さんと安部みちこアナウンサー、講師に中国古典研究家の守屋淳さん、朗読で俳優の小野武彦さんが出演していた。出演者の個性がうまくかみ合っており、引き込まれた。番組の構成が分かりやすく、テンポもよいので視聴者の満足度が高いのではないかと。一方で、「論語と算盤」というタイトルが生まれるきっかけとなった画帳がフリップで紹介されていたが、もう少しアップで見せてほしかった。また、テキストにも写真を掲載してほしかった。テキストには「論語と算盤」から引用した文章がいくつか記載されている。「論語と算盤」は講演録で10章から成るが、どの章のどの部分から引用したのか、丁寧に記載したほうがより親切だろう。テキストの作り方についてはさらに工夫してほしい。
- 4月から始まった「クラシックTV」を見ている。「ららら♪クラシック」もよい番組だったが、「クラシックTV」もさまざまな趣向がこらされており素晴らしい。男性のピアニストと女性の歌手というこれまでにないMCの組み合わせがよい。クラシックの番組としては珍しく、開放感のあるセットが効果的でよかった。4月1日(木)に放送された「今井翼×フラメンコ」の中でスペインの作曲家であるファリャを取り上げた際に、「この点に関してはファリャを措(お)いてほかにいない」というテロップが出ていた。常用外の漢字をひらがなだけで表示するのではなく、漢字に仮名を振る形で表現していたことがよかった。日本語における仮名交じり文は大切に伝えていきたい文化であり、視聴者に対しても親切ですばらしい対応だった。
- 3月8日(月)に再放送されたBS1スペシャル「奇跡の里浜～震災9年 再生の日々～」を見た。宮城県仙台市の新浜地区に焦点を当てていたが、これまでに放送されてきた多くの震災関連番組とは少し異なる印象を受けた。津波の被害が大きかった里浜が再生していく様子が美しい映像で描かれていた。自然が持つ再生力のほか、住民たちの営みや思いが丁寧に描かれていた。人間は本来自然の中で生かされていることを感じさせてくれる番組ですばらしかった。

(NHK側)

東日本大震災から10年が経過した。ニュースやドキュメンタリーのほか多くの番組で震災に関連する話題を取り上げ、さまざまな放送波で編成した。総合テレビでは「NHKスペシャル」を8本制作して放送したほか、ドラマやさまざま

まなジャンルの定時番組などでも多角的に伝えた。また、これまでに放送してきた番組の中から、改めて見ていただきたい番組を再放送した。視聴者からの反響も大きく、幅広い世代に見ていただくことができたと考えている。

- 4月7日(水)に再放送された「令和を彩る京都の桜 ハイライト」(BSプレミアム 後3:54~5:23)を見た。誰もが一度は見たいと思うような京都の満開の桜を美しい映像で紹介しておりすばらしかった。ハープの音色がすばらしかったが、演奏者が楽譜を頻繁に見ており少し気になった。4月10日(土)の「生中継! 一目千本 吉野の桜」(BSプレミアム 後7:00~8:59)も見た。吉野の桜の魅力を堪能することができてとてもよかった。ギタリストの押尾コータローさんの演奏がすばらしかった。桜の映像と調和しており、とてもよい演出だった。人間国宝(小鼓)の大倉源次郎さんが奈良の桜について語っていたが、興味深い内容ですばらしかった。

- NHKは緊迫するミャンマーの情勢について、「NHKスペシャル」や「ETV特集」などで多角的に取り上げている。国際的な話題について、さまざまな番組で取り上げることはとても重要だと思われるので、引き続きよろしく願いしたい。

NHK編成局
番組審議会事務局